

ロック・ギタリストのための 実践的スケール 完全習得プログラム

著·演奏: 堀沢俊樹

Rittor Music



はじめに

Page 08

✓ ^{序章} ≪ スケールってどんなもの?

Page 09

スケール習得の前に

Page 10



スケールを覚える準備

Page 15

指板上の音名

CD Track 01~03

Page 16

インターバル(音程)のしくみ

Page 22

完全8度

Page 24

完全5度

Page 26

長3度

短3度 Page 30 完全4度 Page 32 長7度 Page 34 短7度 Page 36

長6度 Page 38

短6度 Page 40

長2度 Page 42

短2度 Page 44

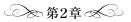
減5度と増4度 Page 46

代表的なコード・フォーム



Page 48 三和音/四和音のアルペジオ

CD Track 04~13



スケールの基礎知識

Page 57

スケール名の構造

Page 58

基本スケールの構造

Page 60

スケールの比較

Page 64



Page 67

本章で取りあげる基本スケールについて

Page 68

マイナー・ペンタトニック・スケール

CD Track 14~33

Page 70

メジャー・ペンタトニック・スケール

CD Track 34~40

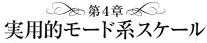
Page 84

ナチュラル・マイナー・スケール CD Track 41~47

Page 94

メジャー・スケール

CD Track 48~53



〈ドリアン、リディアン、ミクソリディアン〉

Page 107

実用的なチャーチ・モード

Page 108

ドリアン・スケール

CD Track 54~61

Page 111

リディアン・スケール CD Track 62~66

Page 120

ミクソリディアン・スケール

CD Track 67~74

Page 128

Extra Lesson

ペンタトニック+*a*Page 138

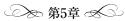
ドリアン+<65>

CD Track 75~76

Page 139

ミクソリディアン+<b3>

CD Track 77~78



和声的&旋律的マイナー・スケール

〈ハーモニック・マイナーとメロディック・マイナー〉

Page 141

ふたつのマイナー・スケールについて

Page 142

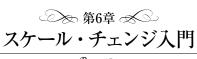
ハーモニック・マイナー・スケール

CD Track 79~84 Page 144

メロディック・マイナー・スケール

CD Track 85~89

Page 152



Page 159

初歩的なスケール・チェンジの攻略法

Page 160

ドリアンの半音移動

CD Track 90~91

Page 164

ドリアンの全音移動

CD Track 92~93

Page 166

ノンダイアトニック・コードの攻略例

CD Track 94~95

ナチュラル・マイナーとハーモニック・マイナーP5↓の切り替え

CD Track 96~97 Page 170 ペンタトニックの選択例 CD Track 98~99 Page 172

Column

Cメジャー・ペンタトニックとAマイナー・ペンタトニックのトレーニング

Page 93

アドリブの第一歩

Page 106

終わりに

Page 174

著者プロフィール Page 175

付属CDの音源について

本書には、各レッスンで演奏する譜例のガイド、模範演奏&カラオケを収録したCDが付属しています。練習の 際には、ぜひ耳でもスケールの響きを確認してください。

音色について

指板上の音名ではピアノ、アルベジオと各項の規則的なフレーズでは、ギターの音色による打ち込みのガイド が収録されています。また規則的なフレーズのガイド音は、1回目は大きく、2回目は小さくなっています。1回目 でフレーズを確認し、2回目で合わせて弾くなど、自由に活用してください。

カラオケについて

各スケールを使った実践フレーズには、カラオケ・トラックも用意されています。〈模範演奏→カラオケ〉の順で、 連続する別々のトラックに収録されています。フレーズ攻略に活用してください。



はじめに

本書は、はじめてスケールに興味を持ったビギナーから、何度 か挫折をくり返してきた中級者までを対象とした、ギタリストのた めのスケール習得プログラムです。執筆にあたり、私自身がかつて どのようにスケールを習得してきたかを思い出し、またそれを人に 伝えるにはどうすればいいかを考えながら組み立ててみました。

ギターという楽器の特性上、"指板上の音名"と"指板上のインターバル"を覚えてしまえば、楽譜に頼ることなく、ある程度スケールを使えるようになります。また本書で取りあげた9つのスケールをマスターすれば、あとは独学でスケールの知識を広げていけるはずです。ではプログラムに沿って、必修スケールを習得していきましょう。

堀沢俊樹



序章

スケールってどんなもの?

これから9つのスケールを覚えていくに先だって、よりスムーズに本書を読み進めてもらうためにも、この章で、"そもそもスケールとはどのようなものなのか?"という基本的な疑問に答えていきたいと思います。

何のためにスケールを覚えるのか?、スケールを覚えると何ができるのか?、効率良くスケールを覚えるにはどうすればいいのか?など、やや抽象的な問題を少しでも解消しておきましょう。



スケール習得の前に



具体的なレクチャーの前に、スケール入門者からのよくある質問に答えながら、少 しでも皆さんの疑問や不安を軽くしたいと思います。抽象的な問題も含む4つのテー マを通じ、スケールを身につける意義や行程ついて、簡単に説明していきましょう。

そもそも、スケールって何?

スケールとは"階段状に並べられたオクターブ以内の音列"を指す音楽用語です。もう少し噛み砕いて言えば、"高さの順に並べられた音の列"で、1オクターブ内の12音から、何音かをピックアップしたものとも考えられます(図①)。

ほとんどのポピュラー音楽では、スケールを基盤にメロディやハーモニー、コード が作られます。オクターブ以内と定義されますが、実際の演奏や作曲する際には、1 オクターブ以内である必要はまったくありません。

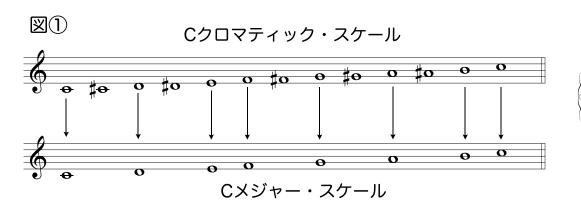
いわゆる<ドレミファソラシド>もスケールのひとつで、C音からスタートする<ドレミファソラシド>をCメジャー・スケールと言います。Cメジャー・スケールの<C>はスケールの起点にあたる音、<メジャー>はスケールの種類を表わしています(図②)。つまり、D音からスタートするメジャー・スケールはDメジャー・スケール、E音からスタートするメジャー・スケールになります。

スケールを覚えるとどうなるのか?

ギタリストにスケールの知識は必要か?という疑問をよく耳にします。絶対音感があり、すべての音と指板が結びついていれば、スケールの知識は必要ないかもしれま

せん。しかし、そうでない場合、アドリブでソロを弾きたいと願うなら、スケールを 習得することが最も効率的な手段と言えるでしょう。

プロの中にも"スケールは知らない"と公言するギタリストはいますが、多くの場合はスケールの名前を知らないだけで、自分の経験で積み上げられた独学のスケールが、指板上に見えているのではないでしょうか。アドリブに限らず、作曲やギター・ソロのアレンジにも、スケールは役立ちます。また、コピーしたメロディやフレーズを弾く際にも、そのメロディの拠りどころとなるスケールを知っていれば、ミスをする可能性が格段に低くなります。また耳コピの際にも、スケールの知識があれば、聴きとるのも覚えるのも目に見えて早くなるでしょう。



スケールの起点にあたる音 (スケールの種類) C メジャー・スケール

図(2)

第一章

スケールを覚える準備

スケール習得プログラムの第1歩として、本章では、 スケールを効率良く覚えるために必要な基礎体力を養います。

まず初めに"指板上の音名"を覚えましょう。スケールを地図に例えるなら、指板上の音名は現在地のようなものです。スケールを使いこなすため、指板上の死角を潰しておきましょう。

次に、代表的なコード・フォームと照らし合わせながら、"インターバル"をひとつひとつ確認していきます。 指板上の形でインターバルを覚えてしまえば、スケールやコードに対する理解力が、目に見えて上がります。 このふたつを習得して、スケールを覚えるための基盤を作っておきましょう。



指板上の音名



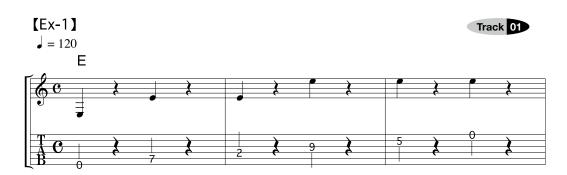
スケールを使いこなすためには、まず指板上の音名を把握しておく必要があります。 地道なトレーニングですが、タブ譜を見なくてもスラスラ弾けるようになるまで、毎日 少しずつ続けてください。

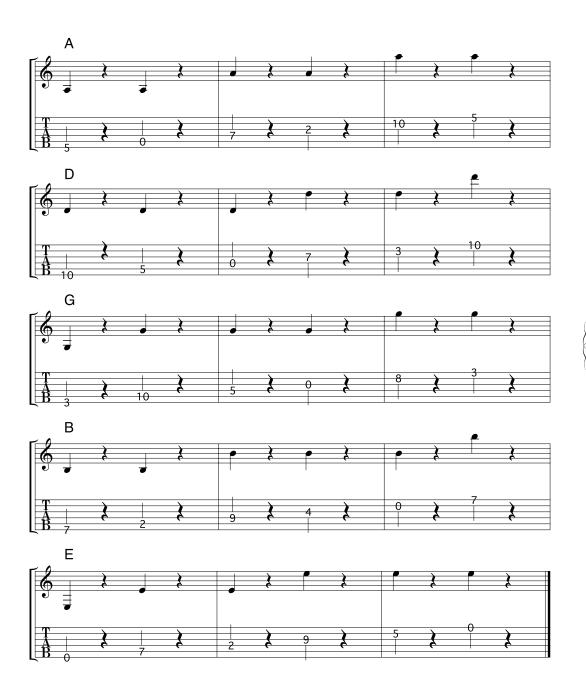
開放音のトレーニング

最終的には#やbを含むすべての音名を覚えたいところですが、まず、ギタリスト にとって馴染み深い、各弦の開放音を把握するところから始めましょう。

Ex-1は6弦から1弦まで、12f以内の同音名部を弾いたものです。 $1\sim3$ 小節目では各弦のE音、 $4\sim6$ 小節目では各弦のA音を1拍おきに弾いていきます。以下同様に各弦のD音→G音→B音→E音と続きます。

この譜例は、タブ譜を見て弾くだけでは意味がありません。一度タブ譜で確認したら、タブ譜を見ずに、同音名部を6弦から1弦まで弾いていきましょう。次の開放音がスラスラ出てこない段階では、譜例上部のコード・ネームだけを参照してください。





第2章

スケールの基礎知識

基礎体力の次は基礎知識です。本章では、"スケール名の構造"と"スケールの比較"によって、より具体的にスケールの仕組みを解説します。

また実学の第一歩として、"基本スケールの構造"をレクチャーします。

次章から始まる具体的なトレーニングに向けて、ス ケールとはどういうものかを理解しておきましょう。



スケール名の構造



これから実践的に習得していく各スケールは、一定のルールに則って名前がつけられています。 Cメジャー・スケールやAマイナー・ペンタトニック・スケールなど、それぞれのスケールの名前にはどんな意味があるのか、ここで確認しておきましょう。

スケール名の意味

ここまで何度か、<Cメジャー・スケール>という名称が出てきました。序章でも 簡単に触れていますが、ここで改めて<Cメジャー・スケール>を例に、スケール名 の意味を理解しておきましょう(図①)。

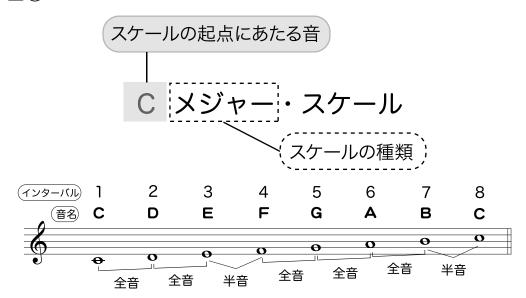
<Cメジャー・スケール>の "C" は、このスケールが<C音>からスタートすることを示しています。

<Cメジャー・スケール>の"メジャー"は、スケールの種類を表わしています。スケールの種類とは、スケール・ノートが、どのようなインターバルで並んでいるかを示したものです。

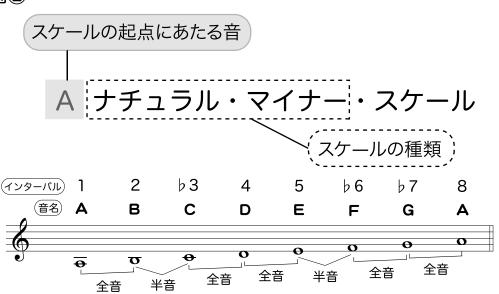
同様に < Aナチュラル・マイナー・スケール>の "A" は、スケールが < A音>からスタートすることを示し、"ナチュラル・マイナー" はスケールの種類を表わしています (図②)。 なお、"Cメジャー・スケール"の "C" や、"Aナチュラル・マイナー・スケール"の "A" など、"スケールの出発点となる音"を"トニック(主音)"と言います。 トニックはスケールの解説に必要な用語です。ここで覚えておきましょう。

このように、すべてのスケールは、"起点となる音名"と"スケールの種類"によって特定されます。このふたつを踏まえたうえで、いくつかのスケールを比較しながら、スケールの概念を構築していきましょう。

\mathbb{Z}



2



第一章

ギタリストの基本スケール

〈ペンタトニックとメジャー&ナチュラル・マイナー〉

第3章では"マイナー・ペンタトニック・スケール"を 中心に、"メジャー・ペンタトニック・スケール"、"ナチュ ラル・マイナー・スケール"、"メジャー・スケール"を関 連づけながらマスターしていきます。

各スケールのレッスンは、〈スケール・ノートの確認 >から〈実践的フレーズ〉まで、着実にスケールを身 につけるためのプログラムが、段階的に組まれていま す。また各項の仕上げとして、アドリブに向けたトレー ニングも用意しました。ギタリストにとって最も身近な この4スケールを確実にマスターしてください。

第4章

実用的モード系スケール

〈ドリアン、リディアン、ミクソリディアン〉

第4章では、メジャー・スケールから導き出された"7 つのスケール"のうち、特に一発モノのアドリブに有 効な"ドリアン・スケール"、"リディアン・スケール"、 "ミクソリディアン・スケール"をピックアップしました。 ペンタトニック・スケールや、三和音、四和音のア ルペジオと関連付けながら、この3スケールをセットで マスターしましょう。

第5章

和声的&旋律的マイナー・スケール

〈ハーモニック・マイナーとメロディック・マイナー〉

本章では、"ナチュラル・マイナー・スケール" を原型とするふたつのマイナー・スケール、"ハーモニック・マイナー・スケール (和声的短音階)" と "メロディック・マイナー・スケール (旋律的短音階)" について解説します。

ナチュラル・マイナー・スケールからハーモニック・マイナー・スケール、ハーモニック・マイナー・スケールからメロディック・マイナー・スケールへと、変化の 過程を確認しながら、ひとつずつ身につけていきましょう。

第6章

スケール・チェンジ入門

ここまで、実用的な9つのスケールを勉強してきました。この最終章では、1曲の中でスケールを使い分けるための、初歩的な攻略法をレクチャーします。

スケール・チェンジのトレーニングに有効な"ドリアンの平行移動"や、スケール・チェンジが必要なシチュエーションを見つけるための基礎理論など、これから独学でもレベル・アップしていけるような力を身につけておきましょう。



終わりに

思えば、私が自覚してアドリブらしきものを弾いた最初の曲が「天国への階段」のライブ・バージョンでした。あまりのソロの長さに完コピをあきらめ、"大体このへんで弾いておけばなんとかなる"と、要所要所コピーしたフレーズに、それらしいフレーズを混入させたのが始まりです。また「ノー・クォーター」の"大体このへん~"が、数年後にドリアン・スケールだと知ることにもなりました。

書き終えてみて、"アドリブらしきものを弾き始める前の自分に、 どうすれば効率よくスケールを教えられるか"がひとつの目安だ ったような気もします。皆さんも"とにかく何か音を出す"ところか ら始めてみてください。この本が少しでも、貴方の演奏のお役に立 てれば幸いです。

堀沢俊樹





Toshiki Horisawa



理論とインスピレーションを両立したプレイにおいて、日本屈指の技術を持つ孤高のギタリスト。フィンガーピッキングとアーミングを駆使したプレイにも定評があり、ジェフ・ベックやマイケル・リー・ファーキンスを彷彿させる擬似スライド奏法も持ち味のひとつ。

E.G.Q.やTHE SURGERY、AIRCASTEL、THE 堀沢スペシャルなど、自身のバンドでのライブ/音源制作活動のほか、ギター・マガジンを始めとする音楽専門誌では、ギター奏法の解説・楽曲の採譜なども担当。2013年に「堀沢俊樹ギター教室」を開設。まったくの初心者からプロ志望まで、レベルに応じた個人レッスンにも力を注いでいる。

近著には『徹底解析ネオ・クラシカル・ギター大全』、 『伸び悩む中級ギタリストのための意識改革トレーニ ング・リック』(ともに小社刊)がある。



175

ロック・ギタリストのための

実践的スケール 完全習得プログラム

2014年12月16日 第1版発行

著・演奏●堀沢俊樹

発行所●株式会社リットーミュージック 〒102-0075 東京都千代田区三番町20番地 ホームページ: http://www.rittor-music.co.jp/

[お客様相談窓口]

リットーミュージック カスタマーセンター (商品に関するお問い合わせ)

電話: 03-6837-5017/FAX: 03-6837-5023

E-Mail: info@rittor-music.co.jp 乱丁・落丁がありました場合は、 当社にてお取り替えいたします。

[書店・取次様窓口]

出版営業部

電話: 03-5213-6260/FAX: 03-5213-6261

[編集/発行人] 古森 優 [編集長] 小早川実穂子

「編集担当」岡見高秀

[装丁] ディー・トライブ 山田達也

[浄書] 堀沢俊樹 [DTP] 石原崇子

[印刷/製本] 図書印刷株式会社

©2014 Rittor Music, Inc. 本書の記事、区版等の無断転載、複製はお断りします。 定価はカバーに表示してあります。 Printed in JAPAN ISBN 978-4-8456-2536-9

読者アンケートご協力のお願い

弊社ホームページに、本書に関するアンケート・フォームを設置いたしました。今後の出版企画、サービス向上の参考にさせていただくためにぜひご協力ください。トップ・ページからお求めの商品名で検索いただき、商品紹介ページの"読者アンケートに答える"ボタンから進んでください。

http://www.rittor-music.co.jp/



新刊案内など、リットーミュージックの出版物の 情報が満載